

(TI).

A violet was found under *Fagus crenata* forest on the southern slope of Mt. Fuji, central Japan in 2003. This violet is morphologically intermediate between *Viola eizanensis* Makino and *V. shikokiana* Makino and is therefore recognized as a hybrid derivative of the two species.

## 引用文献

- 杉本順一. 1984. 静岡県植物誌. 814 pp. 第一法規出版, 東京.  
宮脇 昭, 村上雄秀. 1987. 富士宮市の植生. 177 pp. 富士宮市.

(立正大学地球環境学部)

ガッサントリカブト, 山形県朝日連峰でも見つかる (門田裕一)

Yuichi KADOTA: *Aconitum gassanense* (Ranunculaceae) Newly Found in the Asahi Mountains, Yamagata Prefecture, Northern Japan

ガッサントリカブト *Aconitum gassanense* Kadota & Shin'ei Kato が朝日連峰で発見された。ガッサントリカブトは本誌78巻1号で新種として発表されたものであり、山形県月山が基準産地である。その後、福島県吾妻連峰でも見いだされた(本誌79巻3号)。

ガッサントリカブトに近縁なイイデトリカブトは飯豊山地の一面に分布することが知られている。飯豊山地の東北に位置する朝日山地は、基岩が花崗岩で、最高峰の標高が約2000 mであることなど、その植生と共に地勢が飯豊山地によく似ている。このため、ガッサントリカブトあるいはイイデトリカブトなどサンヨウブシ列 *Ser. Latifolia* Nakai ex Kadota の種が発見されることが期待されていた。このグループのトリカブトは標高1000 m程度の沢沿いで見出されることが多いため、筆者も朝日山地で調査を数回実施してきたが、これまで見出すことができなかった。

2004年9月、天童市の沢 和浩氏を通じて、山形県西川町大井沢自然博物館の武浪秀子氏が朝日山地でガッサントリカブトラしいものを見かけたとの情報が寄せられた。そこで、同年9月30日、武浪氏の案内で朝日山地北部の竜ヶ岳付近で調査を実施した。その結果、花梗に屈毛が生え、葉が軟質で、心皮に特徴的な斜上短毛があること、そして染色体数  $2n=2x=16$  の2倍体種であることが判明したことから、これがガッサントリカブトであると確認した。竜ヶ岳においてガッサントリカブトの群落は合計3ヶ所で見出されたが、

いずれも十数株ほどの小規模な群落であった。

この生育地には4倍体種のオクトリカブト *A. japonicum* Thunb. subsp. *subcuneatum* (Nakai) Kadota も同所的に生育していた。ガッサントリカブトが最初に発見された山形県月山ではイイデトリカブトと同所的に生育することが確認されたが、イイデトリカブトは月山トリカブトと同じく2倍体種である。ガッサントリカブトが他のトリカブト属4倍体種と同所的に生育することは初めての報告である。なお、現地ではガッサントリカブトとオクトリカブトの中間型は見られなかった。同じく2倍体種であるサンヨウブシも時にホソバトリカブト *A. senanense* Nakai などと同所的に生育することがあるが、やはり中間型は見つかっていない。2倍体種と4倍体種は花期は重なり、訪花昆虫が選択的に訪花するという現象も見られないため、何らかの形で生殖的隔離が存在するものと考えられる。

現地では標本とともに種子を採取した。現在、冷蔵庫でこれを保存中である。これまでの発芽実験の結果では、サンヨウブシ列のサンヨウブシとイイデトリカブトはともに発芽率が0%であった(門田 未発表)。実際にガッサントリカブトの種子を播種して発芽率を調べ、その結果を改めて報告したい。

朝日連峰におけるガッサントリカブトの情報をお寄せいただいた沢 和弘氏、及び台風による暴風雨の中、現地までご案内いただいた武波秀子氏、そして染色体の観察をしてい



Fig. 1. *Aconitum gassanense* Kadota & Shin'ei Kato newly found from the Asahi Mountains, northern Japan (Photo by Ms. Hideko Takenami on 30 August 2004). *Aconitum gassanense* is similar to *A. japonicum* subsp. *subcuneatum* but the former is distinguished from the latter by having membranous leaves with deep-set veins, tall conical helmets, slender and long nectary spurs and thin pericarp.

ただいた北海道教育大学旭川校の西川恒彦教授に感謝の意を表したい。

***Aconitum gassanense* Kadota & Shin'ei Kato** in J. Jpn. Bot. **78**: 16, figs. 1–3 (2003)—Hasununa & Kadota in J. Jpn. Bot. **79**: 207 (2004).

Specimens examined: JAPAN: Honshu; Yamagata Pref., Nishi-Murayama-gun, Nishikawa-machi, Asahi Mountains, Mt. Ryûgatake, alt. ca. 1000 m, 30 September 2004, Y. Kadota 044154–044162 (TNS).

*Aconitum gassanense* Kadota & Shin'ei Kato (a diploid species) described from Mts. Gassan, Yamagata Pref., northern Japan has now also been found in Mt. Ryûgatake, Asahi Mountains,

Yamagata Pref. This aconite was found growing along small streams along montane summer-green scrubs at the elevation of ca. 1000 m. In the area only three small populations composed of several individuals were observed.

It was found that another aconite, *A. japonicum* Thunb. subsp. *subcuneatum* (Nakai) Kadota (a tetraploid species), grows sympatrically with *A. gassanense* at the sites. The occurrence of intermediate forms between the two aconites were not confirmed. It is considered that the two species of aconites do not hybridize with each other because of the difference of ploidy level. There must be sexual isolation between the two species.

(国立科学博物館植物研究部)